

氏名	占 部 清
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙 第 1221 号
学位授与の日付	昭和 56年 9 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	思春期家兔の内分泌諸臓器 cAMP 系におよぼす gonadotropin および LHRH の効果
論文審査委員	教授 産賀敏彦 教授 佐伯清美 教授 木本 浩

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

思春期発来機構の解明を目的とし、思春期家兔の内分泌諸臓器 cAMP 濃度におよぼす gonadotropin, LHRH の効果を各臓器の cAMP, adenylate cyclase 活性, cyclic nucleotide phosphodiesterase 活性, 血中 LH, FSH, estradiol, progesterone を測定して考察した。

生後 5, 7, 9, 14 週の雌性家兔を対象とし、5 日間薬物投与を行ない、最終投与の 16 時間後に、松果体、視床下部、下垂体、副腎、性腺を摘出し実験に供した。思春期家兔内分泌諸臓器内 cAMP 濃度は各臓器とも成熟期に比較し高値を示し、gonadotropin あるいは LHRH の投与により低下、すなわち成熟期レベルへの接近を認め、その変動は、生後週数および臓器により特異性が認められた。

Gonadotropin と LHRH の効果は思春期前と考えられる生後 5, 7 週では性中枢である視床下部および下垂体で有意に cAMP 濃度を減少させたが、性腺では思春期初期および思春期中期と考えられる生後 9, 14 週で有意の減少を認め、思春期前の生後 5, 7 週では変動を認めなかった。adenylate cyclase 活性は各臓器とも有意の変動を示さず、phosphodiesterase 活性は上昇傾向を認めた。血中ホルモンの変化では LH, FSH は、gonadotropin および LHRH の投与により思春期前より上昇傾向がみられたが、estradiol, progesterone は 9 週以降ではじめて変動を示し、薬物投与後の各血中ホルモンの変動は当該臓器内 cAMP 濃度の変化と時期的に一致した動きを示した。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は思春期発来の機構について研究したものであるが、ホルモン刺激によって思春期家兎の内分泌諸臓器の特性に関して基礎的かつ重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。